

スナメリ 日本周辺

Finless Porpoise, *Neophocaena phocaenoides*

管理・関係機関

農林水産省

生物学的特性

- 寿命: 最長で 30 歳程度 (詳細は不明)
- 性成熟年齢: 雌 4 歳以下; 雄 3~9 歳 (太平洋岸・瀬戸内海の個体)、雌 5~9 歳; 雄 4~6 歳 (西九州沿岸の個体)
- 出産期・出産場: 春~夏 (太平洋岸・瀬戸内海の個体)、秋~春 (西九州沿岸の個体)
- 索餌期・索餌場: 周年、日本の沿岸海域
- 食性: イワシ類、イカナゴ、コノシロ、イカ類、タコ類、エビ類など
- 捕食者: ホホジロザメ、シャチ

利用・用途

展示鑑賞 (水族館)、かつては油にも利用された

漁業の特徴

商業捕獲は行われておらず、科学的特別採捕のみが許可される。水産資源保護法の対象種である。

漁獲の動向

戦後の一時期、油を採取する目的で捕獲されたことがあった。また水族館での展示に供するため、まき網による捕獲が行われたこともある。橘湾ではかつて、小型定置網で多くの個体が混獲されていたが、漁法が変化して混獲は減少した。しかしその後も混獲は続いており、大村湾、有明海・橘湾では資源量推定値の 1% 程度が 1 年間に混獲されていると考えられている。2004 年 11 月に伊勢湾で、学術研究及び教育展示を目的に 9 頭の特別採捕が行われた。



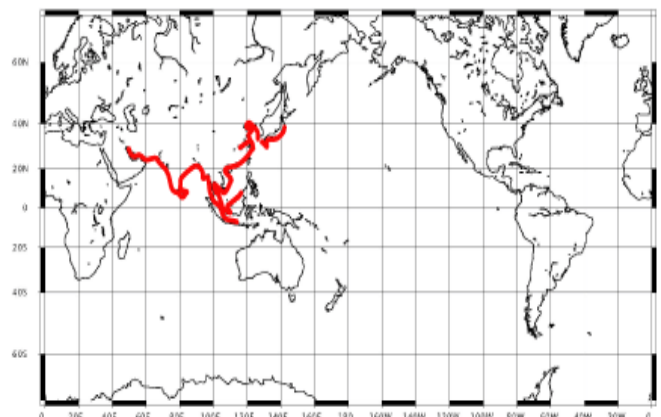
写真: 鳥羽水族館提供

最近一年間の動き

本種の捕獲は行われていない。2006 年冬季に、本種を主対象とした航空目視調査が、遠洋水産研究所により東部~中部瀬戸内海において実施の予定である。



我が国周辺においてスナメリが分布する主な 5 つの海域: 仙台湾~東京湾、伊勢湾・三河湾、瀬戸内海~響灘、大村湾、有明海・橘湾 (Shirakihara et al. 1992 を改変)。海域ごとに系群に分かれているものと考えられている。



本種の世界的な分布域 (赤; Kasuya 1999 にもとづく)

資源状態

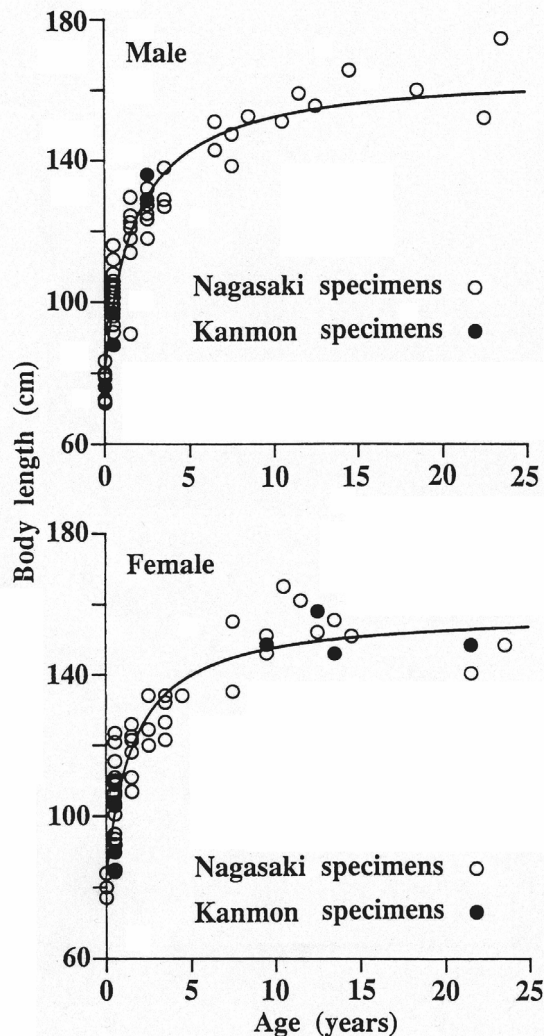
本種には日本周辺に少なくとも 5 つの系群が存在する。航空目視調査による最新の資源量推定値は、仙台湾～東京湾系群のうち仙台湾～房総半島東岸:3,387 頭(CV=32.7%、2000 年)、伊勢湾・三河湾系群:3,000 頭程度(2003 年、吉田未発表)、瀬戸内海～響灘系群のうち周防灘:2,000 頭程度(2003 年、吉田未発表)、大村湾系群:300 頭程度(2004 年、吉田未発表)、有明海・橘湾系群:3,000 頭程度(2003 年、吉田未発表)である。瀬戸内海東部海域では生息密度の低下が示唆された。他海域では資源の減少を示す兆候は得られておらず、資源動向はとりあえず「横ばい」と判定されるが、大村湾をはじめ生息数はそれほど多くないため、今後とも資源動向の把握に努める必要がある。資源状態については、安全を見込んで「中」程度と見なしたが、生息数の少ない大村湾は「低」と扱うのが適切であろう。

管理方策

商業捕獲は行われていないが、漁網への混獲が起きている。混獲数の把握に努めるとともに、混獲を減らす努力が必要である。本種の生息域はいずれも人間活動の盛んな場所であり、海砂の採取などが過度に行われれば、生息域の縮小や分断を招く可能性がある。目視調査を通じ、資源量・分布状況の変化等について情報を収集する必要がある。

資源評価まとめ

- 日本周辺に少なくとも 11,574 頭以上生息
- 瀬戸内海では生息密度低下が示唆されたが、他海域ではその兆候はない
- 資源状態は安全を見込んで「中」程度、生息数の少ない大村湾は「低」と扱うのが妥当
- 引き続き資源の動向把握が必要



スナメリの成長曲線(長崎県・関門海峡周辺の個体より)(Shirakihara et al. 1993 を改変)

資源管理方策まとめ

- 商業捕獲はないが混獲が発生
- 当面の目標は、現状の維持
- 目視調査で資源量と分布状況をモニタリング

スナメリ(日本周辺海域)の資源の現況(要約表)

資源水準	中位(大村湾系群は低位)
資源動向	横ばい(瀬戸内海で減少の可能性、要調査)
世界の漁獲量(最近5年)	詳細は調査中 各地で混獲あり
我が国の漁獲量(最近5年)	商業捕獲はなし 2004年11月に、伊勢湾で9頭の特別採捕